

令和元年度（2019年度）市民公益活動センター 事業の実施状況 No.1

公募により選定した指定管理者「NPO 法人市民ネットすいた」により、以下の事業を実施
令和元年度（2019年度）交流スペースを含む施設利用者は59,147人

1 施設の使用許可業務

会議室、事務ブース、メールボックス、ロッカー、物品棚の使用許可及び使用料の徴収

2 相談事業

- ① 一般相談：市民公益活動団体の運営に関する相談、市民公益活動への参加や市民公益活動団体による支援を希望する市民からの相談等（随時、相談269件）。ボランティア・NPO 初歩講座を月1回開催。
- ② 専門相談：税務・会計の有資格者による相談日の設定（開催3回、参加者0名）。また、随時の相談を受付。専門相談員体制を構築し、認定NPO 法人と連携してのプロボノ制度の整備も開始。
- ③ NPO 法人相談：窓口で随時対応。また、NPO 法人設立講座終了後に個別相談に対応。
- ④ IT 座談会：市民公益活動団体などのITに関する相談に随時対応。

3 情報提供・広報支援事業

- ① ウェブサイト：センターの開催事業案内、市民公益活動団体情報、施設運営に関する情報公開など。Facebook も活用。
- ② ニュースレター：事業報告及び講座・イベント等の案内、特集記事を掲載、4回発行（各2,500部）
配付先：市民公益活動届出団体、施設利用者、市の関連部署、市内公共施設、市内地縁組織、他市の間接支援組織など
- ③ ちらし同封サービス、配架：ニュースレターを配付する際、市民公益活動団体のちらしを同封するサービスを実施。また、交流スペースでチラシやパンフレットの配架、ポスター掲示を実施（1,105件）。
- ④ 市民公益活動団体ガイドブックの更新管理：ウェブサイトの情報を随時更新。

⑤ メールマガジン：センターの事業案内、助成金情報、市民公益活動団体等のイベント情報やボランティア情報等、月に1回発行。

対象：市内で活動する市民公益活動団体、市民、事業者、行政

⑥ 市民公益活動のための図書の設置：市民公益活動に関する書籍や掲示物、パンフレット等の資料を収集し、市民活動スペース・交流サロンに設置。

令和元年度（2019年度）市民公益活動センター 事業の実施状況 No.2

4 講座・研修事業

| 講座名 | 実施回数・内容 | 参加者数 |
|----------------------|---|------|
| ボランティア・NPO 初歩講座 | 11回 少人数の受講者を対象に市民公益活動の基本的なことを解説し、個別相談にも対応。NPO 活動やボランティアグループのデビューのきっかけもつくることできた。 | 19名 |
| 地域活動デビュー講座 | 1回 「ソーシャルな生き方」をテーマに、eN カレッジすいたのアウトロ講座として開催。 | 11名 |
| NPO・ボランティアグループデビュー講座 | 1回 ボランティア体験の振り返りとしてワールドカフェを実施。 | 8名 |
| 公益活動向けの法人化講座 | 3回 公益活動団体の法人化の支援を図るとともに、これから公益活動に取り組んでいく方の法人化への理解を深めるための講座を開催。 | 9名 |
| 会計・税務に関する講座 | 0回 （新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止） | 0名 |
| 団体情報の発信に関する講座 | 3回 広報の基礎とチラシの作成方法の習得のための講座を実施。 | 27名 |
| 財源の確保に関する講座 | 3回 補助金、助成金、会員拡大、自主事業財源などをテーマにした講座。吹田市市民公益活動の支援補助金説明会は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため中止。 | 45名 |
| NPO・ボランティアグループ運営講座 | 3回 コミュニケーションに特化した講座（エンパワーメント、アサーティブ）のほか、テーマカフェの企画作りを実施。 | 34名 |
| 地域コミュニティ運営講座 | 2回 市民の政治参画における姿勢とアプローチについて学ぶ講座や、地域とのかかわり方や市民自治について学ぶ講座を開催。 | 68名 |

令和元年度（2019年度）市民公益活動センター 事業の実施状況 No.3

5 交流・連携促進事業

| 交流・連携事業名 | 実施回数・内容及び目的 | | 参加者数 |
|--------------|-------------|---|------|
| 団体交流会 | 2回 | 吹田市災害支援ネットワーク会議と団体同士の交流促進の場として利用者懇談会兼団体交流会を実施。 | 63名 |
| 市民協働マッチング | 随時 | 市民協働のニーズを受け付けて、ウェブサイトやメールマガジンなどで広報し、分野やセクターを越えた連携・マッチングの支援ができる状況を整えた。 | — |
| 現場で学ぶ団体運営学習会 | 随時 | 相談等事業で、相談者に活動事例を知ってもらうことが有効と思われるケースについて、市民や団体が先駆者の経験と活動の現場を直接見聞きできる機会を作った。 | — |
| テーマカフェ | 10回 | 特定のテーマで自由に語り合える「カフェ」を開催し、関心のある人たちが集まる交流の場を提供。テーマ：「映画のなかの「マイノリティ」なひとたち」「市議会見学会」「ゲートキーパー」「おとなのひきこもりを考える」等 | 137名 |
| 「このゆびとまれ」の会 | 随時 | 市民公益活動でやりたいことが具体的にある個人、なにかやってみたい個人に対して、団体やプロジェクトの立ち上げ支援や運営サポートを実施。 | — |
| 地域コミュニティラボ事業 | 随時 | 自治会や地域コミュニティの拠点となる公民館などの運営や企画について随時相談対応やサポートを実施。また、「地域自治組織運営トリセツ」を活用し、地域自治組織入門講座を実施。 | — |
| おすそわけマーケット | 常設 | ひと昔前なら日常にあった「おすそわけ」の習慣や近所づきあいをセンターで復活させるプロジェクト。おすそわけから始まる新しい地域コミュニケーションとして、利用者の層を広げた。 | — |
| プロボノワーカー説明会 | 1回 | 支援を希望するNPO・地域団体も同時募集するための説明会を開催。プロボノという新しいボランティアのスタイルについて知る機会を作った。 | 5名 |

その他、東日本大震災により吹田市に避難された方の相談窓口を開設。

令和元年度（2019年度）市民公益活動センター 事業の実施状況 No. 4

6 調査・研究・政策提言など市民公益活動の社会的環境整備を行う事業

市民（民）と行政（公）の協働＝公民協働に焦点を絞り、協働を負担に感じるのではなく、無理なく、楽しく、まちづくりを進めていくための手引きとして「あなたの現場が10倍楽しくなる公民協働術（協働事例集 vol.2）を作成。（500部）

7 施設運営について

① 利用者懇談会：施設利用者にセンターの運営や利用、サービスに関しての意見を出してもらい運営に反映した。3回開催。

② ボランティア制度：登録ボランティア（ラコルタサポーター）がニュースレターの企画編集やテーマカフェの企画進行を行うなどセンター事業への積極的な参画があった。単発短時間で取り組める「ぷちボラ」では、ボランティア体験の機会を提供、ボランティアチーム「あつめる」では、使用済み切手やはがきの収集を行い、アフリカの植林支援のための寄付をした。

8 自主事業

① コミュニティカレッジ 「eNカレッジすいた」

地域人材育成を目的に第6期「eNカレッジすいた」を実施。

② 他事業から生まれる交流・連携

施設運営の様々な場面で交流・連携を図った。相談等事業の対応結果として、交流・連携を生み出す事業の会場貸与、広報支援などのサポートを行った。また、協働マッチング事業から発展させることもできた。